



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯学部長 宮崎 隆

去る2月16, 17日に岡山大学鹿田医療キャンパスで、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会と担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」に関する連携総括シンポジウムが開催され、弘中教授、石川講師(口腔衛生学)と参加してきました。



このプログラムは平成26年度から、岡山大学の窪木拓男教授を事業責任者として、北海道大学、金沢大学、大阪大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、日本大学、昭和大学、兵庫医科大学の連携大学ならびに東京大学高齢社会総合研究機構、東京大学死生学・応用倫理センター、東京都健康長寿医療センター、国立長寿医療健康センターを協力施設として歯学教育改革コンソーシアムを設立して5年間の活動を続けてきました。今回最終年度の総括となり、本学からは弘中教授と石川講師が本学の取組みについて講演しました。

私は窪木先生と一緒にこのプログラム申請を策定しました。本学は当時からチーム医療教育を実践していましたが、主体は医学部附属病院における急性期医療の現場でした。本プログラムは急性期から、回復期、維持期、在宅看護、終末期医療までを支援する口腔機能管理ならびに歯科医療を担う教育プログラムの開発であり、本歯学部にとっても非常に益するものがありました。

今回、厚生労働省医政局歯科保健課の田口円裕課長が「健康長寿を担う歯科医師の養成とあるべき歯科医師像」のタイトルで特別講演をされました。

これまで厚生労働省では、2025年問題と称して、団塊世代が後期高齢者に突入する時期の対応として、地域包括ケアを打ち出し、その中で歯科医師も多職種連携での貢献が求められています。今回、さらに2040年問題として、総人口減少で労働力の確保が難しくなることが予測され、このまま介護の必要な高齢者が増えると、現役人口の2割を医療福祉関係で確保しないと社会がなりたないとの指摘でした。現実には財源も人的資源も不可能そうで、日本の将来が暗くなります。

解決策として、海外からの労働力の導入やロボットなどのテクノロジーへの期待もあります。一方で、私たち歯科からの対応もますます期待されていると思います。歯科においても重症化予防、フレイル対策が求められています。歯科から国民の健康寿命の延伸に貢献していかないとはいけません。このような医療・歯科医療のパラダイムに対応できる歯科医師の育成は、本学が牽引していかなければと改めて思いました。引き続き教育改革を進めていきましょう。

歯科医師国家試験 が実施されました

D6チューター会議 船津 敬弘

第112回歯科医師国家試験が2月2日、3日の2日間実施され、本学は東京工科大学蒲田キャンパスで、他の関東圏の大学と共に受験をいたしました。

各大学とも関係者が多数応援に駆け付けており、会場前は応援ムードに溢れておりました。本学は他校よりも多くの幟を揃え、受験生を激励いたしました。今年は2日間とも天候に恵まれ、宮崎歯学部長、美島教育委員長、高橋教授(第6学年主任)をはじめ多くの教員や先輩、後輩が集まり、受験生の緊張をほぐし、背中を押すべく皆で声かけを行いました。

本年度は94名の卒業生を国家試験の場へと向かわせました。殆どの6年生をこの会場に立たせることができたのも、多くの教員や、関係者の方々のご協力のおかげと感謝いたしております。

期待を膨らませて3月18日(月)午後2時に発表される結果を待ちたいと考えております。週末の貴重な時間を多くの教職員の方々にご協力頂き、ありがとうございました。



医学部併願入試 が実施されました

歯学部長 宮崎 隆

平成31年度医学部一般選抜入試Ⅰ期利用の歯学部併願入試[一次試験]が、1月25日(金)に東京試験場(五反田TOCビル・TOCメッセ)、大阪試験場(新大阪丸ビル別館)、福岡試験場(南近代ビル)の3試験場にて医学部・薬学部と同日に実施されました。

今年度新たに導入された医学部一般選抜入試Ⅰ期利用の歯学部併願入試とは、医学部志願者のうち、内在的な歯学部・薬学部志願者に対して医学部一般選抜入試Ⅰ期[一次試験]を受験すると2学部以上の合否判定が可能であり、歯学部への受験のチャンスが広がる入試です。

その他、受験料が通常より割引になることや、従来の3学部一般選抜入試と医学部一般選抜入試の連日受験による負担が軽減されること、また転部入学制度の適用の対象であるというメリットがあります。

医学部一般選抜入試Ⅰ期利用の歯学部併願入試(3名募集)の志願者数は、106名であり想定を上回る志願者数となりました。そして、翌週の1月30日(水)に一次試験合格者を発表しました。

また、2月2日(土)・3日(日)と2日間に分けて医学部一般選抜入試Ⅰ期利用の歯学部併願入試[二次試験]が医学部・薬学部同日で旗の台キャンパスにて実施されました。

試験当日は天候にも恵まれ、両日ともに特に大きなトラブルもなく2月4日(月)に合格者を発表しました。多くの優秀な学生の入学と歯学部の発展がますます期待されます。

2018歯学系臨床能力認定評価者 養成ワークショップに参加しました

総合診療歯科学部門 伊佐津 克彦

平成31年2月10、11日に2018年度歯学系臨床能力試験認定評価者養成ワークショップが、東京医科歯科大学で行われ、参加しました。

将来的には評価者認定ワークショップに認定された者が他校の評価者として参加することが示唆されました。1日目は私の他に歯科補綴科の田中晋平先生と歯内治療科の高林先生に、2日目は歯周病科の小出先生と歯科補綴科の三田先生に参加して頂きました。

臨床実習終了の試験として、試験の正式名称は、診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post Clinical Clerkship Objective Structure Clinical Exam: Post-CC OSCE)となりました。その中で臨床実地試験は、Clinical Practical exam(CPX)、一斉技能試験は、Clinical Skills exam(CSX)となりました。

2020年度の正式実施にむけて、1日目は、一斉技能試験での評価基準が示され、評価のプレをなくすための方略を検討しました。2日目は臨床実地試験のあり方や試験の回数等が議論されました。国民の眼から見た歯科医師の資質を公に示すためにも重要な試験であることも共通の認識を得たと思います。

今後、学内を対象として、診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験の評価者のワークショップを学内でも行うように示唆されていますので、その際はご協力をお願いいたします。

合格者ガイダンス が実施されました

入試常任委員 高見 正道

平成31年度の入試合合格者ガイダンスが、2月17日(日)午前10時より4号館201・202号室においておこなわれました。

最初に井上富雄教授が合格者に歓迎の言葉を述べたあと、昨年11月の推薦入試に合格した25名は、英語と理科の実力テストを受けました。その後、歯学部1年の岡野有里さんが初年時の寮生活や学修内容などについて紹介しました。

また、1・2月に実施した選抜Ⅰ期(22名)、センターA(6名)、センターB(3名)および医学部併願(1名)の合格者は、高見教授による入学前準備教育の説明と、金丸みつ子教授による富士吉田での生活に対する心構え、そして歯学部1年の中村優太さんによる初年次の生活についての話を聞きました。次に、井上富雄教授が模擬授業として味覚を分子・細胞レベルで解説し、それを興味深そうに聴講していました。

午後からは、各合格者に対する個人面談がおこなわれ、入学準備などに関する質問について常任委員が回答し、ガイダンスは終了しました。4月にこれらの合格者を新入生として迎えることを、とても嬉しく思います。



宮崎隆先生が日本歯科医学会 会長賞を受賞されました。

口腔衛生学部門 弘中 祥司

平成31年2月19日に歯科医師会館大会議室において平成30年度日本歯科医学会会長賞授賞式が開催されました。そこにおきまして本学から宮崎隆先生が研究部門(日本歯科理工学会推薦)において受賞されました。

本賞は、歯科医学・医術の研究に成果を収め歯科医学・医療の向上に特に顕著な貢献があったと認められる方に贈られる名誉な賞です。今回は、研究部門として、宮崎先生をはじめとして、栗原英見先生(広島大学)、平田雅人先生(九州大学名誉教授)の2名の先生、教育部門では安井利一先生(明海大学理事長)、井出吉信先生(東京歯科大学学長)、桃井保子先生(鶴見大学名誉教授)の3名の先生、地域歯科医療部門からは東克章先生(熊本県歯科医師会)が受賞されました。



今回の受賞者は、学長や歯学部長等の著名な先生たちでした。会場から大きな拍手で華やかな授賞式であったとご報告いたします。おめでとうございます。

平成30年度日本歯科医学会 会長賞を受賞しました

歯科理工学部門 宮崎 隆

この度歯学界最高の顕彰である日本歯科医学会会長賞を受賞することができました。

去る2月19日(火)午後2時半から市ヶ谷の日本歯科医師会館で表彰式が執り行われ、住友雅人会長から記念の楯とメダルを授与されました。

今回の申請にあたり、上條教授ほか教授会の皆さまには書類の作成から、私の研究母体である日本歯科理工学会の今里理事長や事務局との連絡に大変にお世話になりました。最終的には日本歯科理工学会からの推薦で研究功績での受賞となりました。

これまでの研究業績については、玉置先生(現朝日大学教授)ほか歯科理工学教室関係者の長年に亘るご支援ご協力のお蔭です。

私は2006年から2008年に日本歯科理工学会の会長を務めた時期には、日本歯科医学会の常任理事として当時の江藤会長にお仕えしました。その後は日本歯科医学会よりも日本歯学系学会協議会の運営に関わりました。2014年に理事長に就任後には、歯科医学会の住友会長と相談して日本歯学系学会協議会と日本歯科医学会がオール日本の立場で連携しようと合意し、共催シンポジウム等をたびたび開催いたしました。

今回は研究功績では、栗原英見先生(広島大学教授)、平田雅人先生(九州大学名誉教授)、教育功績では井出吉信先生(東京歯科大学学長)、安井利一先生(明海大学学長)、桃井保子先生(鶴見大学名誉教授)、そして地域歯科医療功績として東克章先生(熊本県歯科医師会会員)と、長年歯科界で労苦を共にしてきた先生がたと一緒に表彰されました。

定年退職前にこのような名誉ある賞を受賞できたことに対し、本歯学部関係者に篤く感謝申し上げるとともに、この名誉を汚さないように、今後も歯科界に少しでも貢献できればと思っています。

ハノイ医療巡回 に参加しました

大学院3年(歯科補綴学講座) 岩内 洋太郎

先月1月7日から10日にかけて JOMF(海外邦人医療基金)の活動の一環でベトナムの首都ハノイの日本人幼稚園で歯科健診を行う機会を頂きました。自分自身初めてのベトナム訪問ということで、発展途上国での医療現場を現場目線で体験できる良い機会だと感じていました。現地では4つの日本人幼稚園を訪問し、健診と健康相談を行いました。思いのほかう蝕に罹患している子供は少なく、親御さんも慣れない地ですし、歯科に関して不安に感じている点を問診票にしっかり記載してくれているケースが多く、健康相談も含めて少しはお役に立てたのではと感じています。

同行させて頂いた田中健一先生から多くの事を教えて頂き、今まで主観で判断していたう蝕の有無を見分ける基準や、プラークに反応して視覚的にチェックするライト、健診時の口腔内カメラの使い方や子供のバックグラウンドをしっかり配慮した指導を行うことなど、間違いなく自分の歯科医師人生にとって糧となる内容を学ぶことができました。

そして何より今回このような機会を頂いたこと、全日程の手配と初めてのベトナム渡航に関するアドバイスや、現地で沢山ご馳走して頂いた JOMF 安保部長に心より感謝したいです。



大学入試センター試験利用入試 (B方式:地域別選抜)二次試験 が実施されました

歯学部長 宮崎 隆

平成31年度歯学部大学入試センター試験利用入試(B方式:地域別選抜)二次試験が、2月11日(月・祝)に旗の台キャンパスにて全学部同日で実施されました。

大学入試センター試験利用入試(B方式:地域別選抜)とは、全国を6つの地域(「北海道・東北・北関東」、「南関東」、「東京」、「中部」、「北陸・近畿・中国」、「四国・九州・沖縄」)に分けて、その地域ごとに入学者を選抜する入試です。

現役高校生を対象にして、学力試験は、国語、英語、数学、社会、理科と国立並みの科目になります。また、各地域の上位合格者1名(計6名)には初年度の授業料が免除になる特待制度を設けております。

実施2年目となる今年度の志願者数(各地域1名募集[計6名])は、23名と昨年度8名より15名増加し、6つの地域からの出願がありました。一次試験は、1月19日(土)・20日(日)の大学入試センター試験を各自受験し、その結果を基に2月6日(水)に一次試験合格者を発表いたしました。

また二次試験日当日は、週末から関東でも積雪の恐れがあると天候が危ぶまれておりましたが、幸い積雪もなく天候にも恵まれ、特に大きなトラブル等もなく、無事に終了することが出来、翌日2月12日(火)に合格者を発表いたしました。連日の入学試験の運営・実施にご協力を賜り、心から厚く御礼を申し上げます。

白衣授与式 が開催されました

総合診療歯科学部門 長谷川 篤司

平成31年2月22日(金)、上條講堂において歯学部の白衣授与式が開催されました。対象は医療系大学間共用試験実施評価機構の行う知識試験(CBT)、技能・態度試験(OSCE)を受験して、いずれも合格と認定された歯学部4年生102名です。

厳粛な雰囲気の中、宮崎歯学部長からの告示に続いて学生は順に壇上に上がり、9名の臨床系の教員(真鍋教授・荒木教授・島田教授・嶋根教授・代田教授・高橋教授・



菅沼教授・須田准教授・鈴木准教授)からスチューデントデンティストの名称が刺繍されたオリジナル白衣を授与されました。

続いて、小出学長、榎歯科病院長、鈴木歯科衛生士長、先輩である大塚研修医から順に祝辞を受けました。告示、祝辞の中で何度となく「患者様から学ぶ」という言葉が引用され、大学の理念である「至誠一貫」の精神が伝達されました。最後に、学生、教職員ともに昭和大学宣言を力強く唱和して式を閉じました。



当日は歯学部2年生にも見学を許可しました。彼らは先輩たちの凛々しい姿に、数年後の自分たちの姿を重ね、学修に対するモチベーションを新たにしようです。学生たちは2月25日から歯科病院における本格的な臨床実習に参加します。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

3月 3日(日)	一般選抜入試Ⅱ期
3月 7日(木)	卒業式・学位記伝達式
3月15日(金)	大学院修了式
3月18日(月)	歯科医師国家試験合格発表
3月28日(木)	新D3オリエンテーション
3月29日(金)	新D2・D4・D5オリエンテーション
4月 1日(月)	新D6オリエンテーション
4月 4日(木)	新D2防災訓練
4月 6日(土)	大学院入学式
4月12日(金)	入学式

編集後記

口腔病理学部門 田中 準一

2月も下旬となり、日脚が徐々に伸びてまいりました。2月は国家試験・入学試験・進級試験などが重なり忙しい時期となりました。春はまだ浅く、寒さも厳しいので、くれぐれも体調管理にお気を付けください。末筆ながらご寄稿いただいた先生方に深く感謝申し上げます。